

「学びの主体者」となる生徒の育成を目指した  
「問い」を活かす授業の探究  
～創作の授業における思考力・判断力・  
表現力の育成を目指して～

---

平成26年度 国立教育政策研究所  
教育課程研究指定校事業

平成27年2月4日(水)  
北海道教育大学附属札幌中学校  
音楽科 渡辺 景子

# 1 研究主題設定の理由

本校研究主題 「学びの主体者」となる生徒の育成

- 「学びの主体者」  
: 自らの思考・判断をもとに、自他に働きかけ、他者との関わりを通して、自分自身を客観的に捉え、自己の成長に向かうことができる生徒の姿
- 「問い」を活かす授業  
: 生徒自らが「問い」を生み、「問う」ことの価値を実感する授業

# 1 研究主題設定の理由

## 「A表現」領域(3)創作の授業における課題や問題点

- 自作自演を前提にした題材構成・授業形態
  - 自分の創作した音楽を客観的に見つめる場面の不足
  - 記譜力・読譜力・演奏技能不足による創作の困難性
- 生徒の心情的な思いや意図ばかりが強調される
  - 一つの聴き方・感じ方・表現の仕方にとらわれ、他の見方や聴き方、新しい工夫・アイディアが生まれにくい
  - 「なぜそのように感じたの?」「どの音からそう思ったの?」  
という問い返しが先生も生徒も少ない

# 1 研究主題設定の理由

目指す授業や生徒の姿

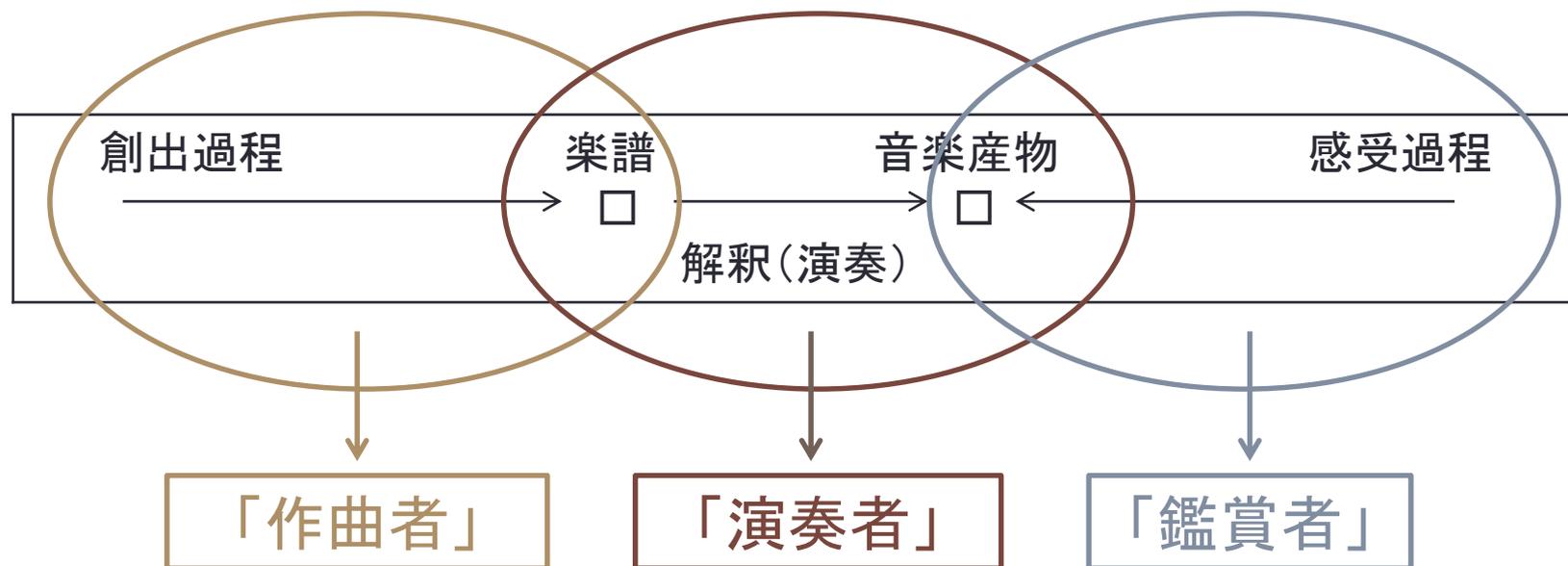
- 創作した音楽を客観的に見つめ、自己の音楽的思考を振り返る過程を設定した授業
  - 自分や他者の創作した作品を振り返って、そのよさや問題点を見出し、工夫・改善の方法を探ることができる

なぜ仲間はこの音を使ったのだろうか

よりおもしろい旋律をつくるにはどうしたらいいだろうか

## 2(1)重点項目①授業形態を工夫し、音楽を捉える視点を意識的に変化させる

- 音楽作品の概念(西洋音楽の場合)



- 生徒個人が「作曲者(創作者)」「演奏者(表現者)」「鑑賞者」の各視点を行き来しながら音楽とかかわる
- 音楽を捉える視点を明らかにしながら、同じ立場あるいは異なる立場で他者と意見交換をする

## 2(1)重点項目①に関わる予備実践

### 第3学年 「A表現」領域(1)歌唱

- 「花」の1・2・3番の旋律や強弱の工夫や違いについて、複眼思考を用いることにより「作曲者の工夫をふまえてこのように表現したい」という思いや意図がはっきりしていった。
- 第1次～第3次まで一貫して「演奏者」の視点で考えを蓄積したことで、生徒自身が学びの深まりを感じることができていた。

次	視点	学習内容
1	鑑賞者 →演奏者	「花」を聞いた第一印象を書こう。 →聞いた印象と歌ってみた印象をふまえ、どのように表現したいか。
2	作曲者 →演奏者	作曲者は、詞の意味をどのようにとらえて作曲したのだろうか。 →作曲者の思いや詞の意味をふまえ、どのように表現したいか。
3	作曲者 →演奏者	作曲者は、旋律や強弱の工夫を通して何を伝えたかったのだろうか。 (1・2・3番の旋律や強弱の比較から分析する) →作曲者の思いや工夫をふまえ、どのように表現したいか。

## 2(1)重点項目②「A表現」領域と「B鑑賞」 領域の関連を図る

予備実践：様々な反復と変化を捉えて鑑賞しよう(B鑑賞)

[共通事項]旋律、構成(反復と変化)

教材：魔法のフルーツバスケット(教科書教材)、クラッピングミュージック(ライヒ)、  
ピアノフェイズ(ライヒ)



授業実践②モチーフを変化させて旋律をつくろう(A表現(3)創作)

[共通事項]旋律、リズム、構成



音楽の構造を理解して聴き、管弦楽の響きを味わおう(B鑑賞)

[共通事項]構成、形式、テクスチャ ※音色

教材：交響曲第5番ハ短調(ベートーヴェン)

## 2(1)重点項目③学習を支援する教具として、タブレット型端末を中心とした機器の教育的可能性を探る

### タブレット型端末の特徴

- personal: 1人1台で活用することで、個人のペースで必要な時に必要な情報を取り出せる
- compact: 軽量で様々な授業形態での活用が可能
- all in one: 様々な動作を連動・連続させられる  
読む・見る・聞く・書きこむ・撮る・動かす・見せる・大きくする・送る・保存する など

## 2(1)重点項目③学習を支援する教具として、タブレット型端末を中心とした機器の教育的可能性を探る

### 創作の授業への応用

- 記譜力・読譜力不足、演奏力不足を補う道具として
  - 「楽譜がよめない」「イメージした音の通りにかけない」「つくれたけれど演奏できない」を補うことはできないか
  - 感覚的に操作ができることや再生機能を活かして
- 生徒の音楽的思考を促し、その過程を記録する道具として
  - 五線譜での記録とワークシートの記録の併用方法
- 生徒相互の学び合いを促す道具として
  - 軽量で様々な授業形態に対応できることを活かして

## 2(2) 授業実践

- 予備実践 2014年11月～2月実施 ※昨年度も実施  
第1学年 「A表現」領域(3)創作  
「音の高さとリズムを変化させて旋律をつくろう」
- 授業実践① 2014年7月～9月実施  
第3学年 「A表現」領域(3)創作  
「主題に合う旋律をつくろう」
- 授業実践② 2014年11月～2015年1月実施  
第2学年 「A表現」領域(3)創作  
「モチーフを変化させて旋律をつくろう」

### 3. 研究の成果(重点項目①②—1)

- 視点を変えて音楽と関わることで、生徒個人の学びを深める効果があった
  - 表現の授業に「作曲者」の視点、創作の授業に「鑑賞者」の視点を取り入れることで発想が広がる

（  
\*題材全体を振り返って

最初のフレーズだけを見ただけで、その他があまり知られていないのかもしれないと思い、様々な視点からこの曲をみることで作曲者の思いが、この曲のうたい方がわかりました。これからもう一つの視点から見て、他方面からこの曲を見て、その曲のすばらしさを発見していきたいです。

### 3. 研究の成果(重点項目①②-2)

- 意見交換を通して、自分とは異なる聴き方・感じ方・表現の仕方に気付く事ができた
  - アイディアの共有や交換
  - 自分の作品に対する自信

第4回 7月18日(金)

今回交流してみて、「みんなに重ね方や構成の工夫があるんだ」とおどろきもつと「うたい」と思う所が多かったので、新しい作品を次回はおつくて  
お楽しみを思いました!!

第5回 7月23日(水)

前回のアドバイスをもとに新しいものをつくってみましたのですが、なかなかうまくいかず、手直しをして前回のものにしました。発表会ではもっと色々な人のものをきいて新しい発想がでると思います。

### 3. 研究の成果(重点項目①②—3)

- 学習内容の整理と関連を図ることができた
  - 学習内容、指導事項、評価の観点の整理(教師側)
  - 自分と作曲家とのつながり(生徒側)

■今日の授業で気付いたこと・学んだこと・感じたこと(第1楽章を視聴して)

どの小節でも、形は少し変わっていましたがモチーフらしいものがずっと使われていました。使ってるものが一応あるのに全然違うように聞かせるのは音色の差だと思います。盛りあげるとは楽器を多くつけて重なりを出して行っている。やっていることは僕たちと同じなんだなともわかりました。

「変化のアイデアがたくさんあったので、正直、創作の前にききたかった」

「最後までモチーフの形を残せるのはすごいと思った」

「モチーフが同じなのに飽きないで聞けるのは、さすがベートーヴェンだと思った」

### 3. 研究の成果(重点項目③ー1・2)

- 生徒の記譜力・読譜力・演奏技能不足を補う効果がある
- 生徒の学習意欲を高める効果がある

フューチャースクール推進事業実証校とのアンケート比較

- [項目1・2・14]肯定的な回答多

楽しく学習する、進んで授業に参加する

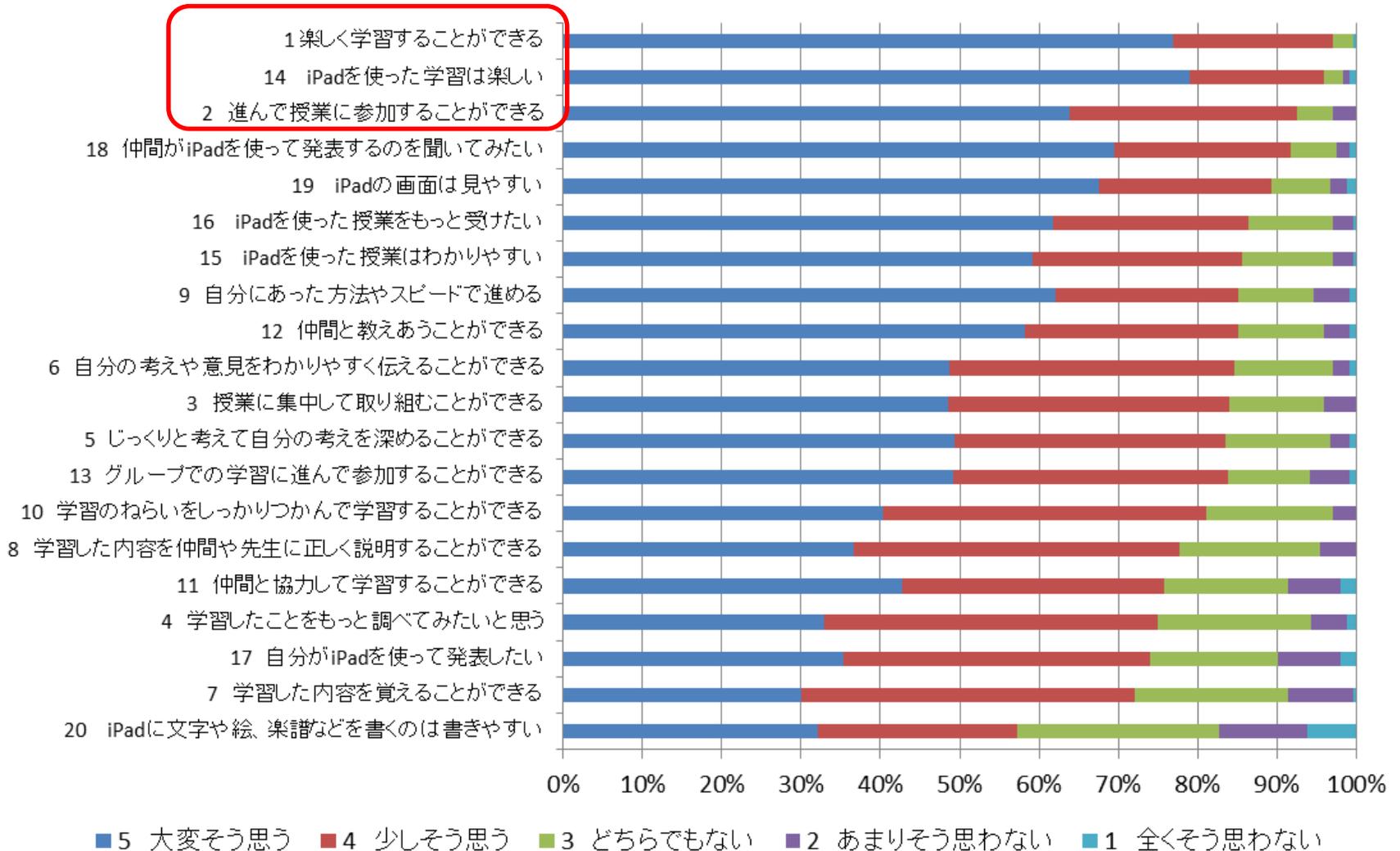
→記譜力・読譜力・演奏技能不足の解決

「間違いなく演奏してくれた」「自分にもできた」

→失敗を恐れずにできる

# 「音の高さとリズムを変化させて旋律をつくろう」授業アンケート

北海道教育大学附属札幌中学校 第1・2学年(243名)対象 2014.3実施



### 3. 研究の成果(重点項目③-3)

- 自他の作品を客観的に見つめ、音楽的な感受を引き出す力を育成する可能性がある
- 仲間の聴き方・感じ方・表現の仕方を受け入れながら、自分で音を選んでいく
  - 自分の作品のよさや改善点に気付く
  - 広がったアイディアの取捨選択ができる
- 仲間の作品を、自分が創作のときに体験した思考で読み解くことができる
  - 意見交流での新しいアイディアの創出、発表会での仲間の作品の評価

### 3. 研究の成果(重点項目③ー4)

- 生徒の創作のアイデアを広げ、多種多様な音楽を受け入れ、新たな音楽世界を考える力を育成する可能性がある
- 作品交流を通し、様々なアイデアを共有できた
- 多種多様な音楽への架け橋
  - 和声的な音楽・20世紀以降の非和声的な音楽
  - 世界の民族的な音楽
  - 実際には演奏が難しい新しい響きのもの、  
タブレット型端末だからこそ表現できる音楽への  
興味・関心 「iPadらしさ」

### 3. 研究の課題

- 「作詞者」の視点では思考が深まらない？（重点項目①）
  - どの題材・教材に、どの視点で関わるかを検討
  - 年間指導計画の見直し、共通事項の関わりを整理
    - それぞれの視点に切り離すばかりではなく、行き来したり重ねたりすることを検討
- タブレット型端末とワークシートとの効果的な活用方法  
(重点項目③)
  - 音楽的な感受を支えとした、音と言葉によるコミュニケーションの充実を図る